

編集：日本フットケア学会

フットケア—基礎的知識から専門的技術まで

書評者：吉原広和(埼玉県立がんセンター・理学療法士)

「人間の生活において『歩く』ことは単なる日常生活動作の範疇ではなく、より高度な文化的活動の維持・向上に不可欠な身体活動である」。このように考えると、歩行を支える足機能の維持・ケアはないがしろにはできず、足病変のアプローチがいかに人の営みに影響を与えるかが窺える。

フットケアの分野は特に欧米において進歩・発展してきた診療分野ではあるが、日本ではやっと取り組みが始まった段階でしかない。欧米とは違った文化をもつわが国では、「フットケア」技術の発展にも生活習慣の違いが影を落とす状況にあったことは否めないが、今後、足病変に対する集学的

治療分野としての「フットケア」が日本でも確立されることを望む医療者は多いのではないだろうか。

足の異常を招く多くの病因は、閉塞性動脈硬化症(ASO)、糖尿病性末梢神経炎、下肢静脈血栓症、リンパ浮腫、がん、リウマチ、皮膚疾患、スポーツ障害、加齢変化など多岐にわたる。近い将来、血管外科・整形外科・内科・皮膚科・形成外科など各専門医や、看護師・理学療法士・義肢装具士・介護福祉士などといった多くの職種が連携し、専門的な足病変のケア・治療が当然のように行われる時代が訪れるに違いない。

日本フットケア学会は2003年

に発足した足病変に関する多職種による専門学会である。本書は本学会が編集したわが国唯一の体系的な「フットケア教科書」である。内容も各病変における基礎知識から専門的なケア・治療技術が学べる構成となっている。足病変のケアに悩む医療者には、必携の書籍といえよう。日本フットケア学会の意気込みが感じられる1冊である。

● B5 頁224 2006年
定価3,360円
(本体3,200円+税5%)
[ISBN 978-4-260-00231-7]
医学書院刊